

公開版

## 平成26年度 教育委員会 第1回定例会 議案

1 日 時 平成26年4月2日（水） 午後2時15分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

<非>第1号議案 平成25年度永年勤続者表彰被表彰者（追加）の決定 … 非

(3) 報告事項

(4) 閉 会

静岡県教育委員会

## 第1回定例会 報告事項

番号	項 目	Page
1	平成26年度教育委員会事務局所属長等	1
2	監査結果に関する報告	2
3	天竜学校等施設の完成（H26. 4月開校の2校）	5
4	平成26年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要	6
5	県内文化財の重要文化財指定	8

報告事項 1

平成26年度教育委員会所属長等名簿

平成26年 4月 1日

No.	所 属 名	職 名	氏 名	前 所 属 ・ 職 名
1		教 育 長	あ べ と お ろ 安 倍 徹	(浜松北高等学校長)
2		教 育 次 長	や ま ざ き や す ひ ろ 山 崎 泰 啓	(危機管理監代理兼危機管理部理事)
3		教 育 監	み づ も と と し お 水 元 敏 夫	静岡高等学校長
4	教 育 総 務 課	事務局参事兼 課 長	い け だ か ず ひ さ 池 田 和 久	財政課長
5	教 育 総 務 課	健康安 教 育 室 長	た か は し ゆ う こ う 高 橋 雄 幸	伊東市立対島中学校長
6	教 育 政 策 課	課 長	や ま も と と も し げ 山 本 知 成	法務文書課参事
7	〃	情 報 化 推 進 室 長	な か が わ よ し ひ ろ 中 川 好 広	浜松特別支援学校事務長
8	〃	人 権 教 育 推 進 室 長	ひ ら ま つ あ き こ 平 松 明 子	同室主席主任指導主事
9	財 務 課	課 長	か わ の や す ひ ろ 河 野 康 裕	(くらし・環境部経理監)
10	福 利 課	課 長	す ぎ や ま か ず ゆ き 杉 山 和 幸	(教育総務課事務統括監兼法規・給与班長)
11	義 務 教 育 課	課 長	は や し た け し 林 剛 史	文部科学省初等中等教育課専門官
12	高 校 教 育 課	課 長	し ぶ や ひ ろ ふ み 渋 谷 浩 史	教育政策課長
13	特 別 支 援 教 育 課	課 長	わ た な べ ひ ろ き 渡 邊 浩 喜	学校教育課特別支援教育室長
14	社 会 教 育 課	課 長	き た が わ き よ み 北 川 清 美	教育総務課事務統括監兼法規・給与班長
15	文 化 財 保 護 課	課 長	ま す だ よ う こ 増 田 曜 子	中央特別支援学校事務長
16	ス ポ ー ツ 振 興 課	課 長	ふ く な が ひ で き 福 永 秀 樹	農山村共生課長
17	静 東 教 育 事 務 所	所 長	い し い の ぶ あ き 石 井 宣 明	(静岡教育事務所次長兼教職員課長)
18	静 西 教 育 事 務 所	所 長	わ た な べ さ と し 渡 邊 聡	学校人事課人事監兼課長補佐兼小中学校班長
19	埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー	所 長	あ か い し た つ ひ こ 赤 石 達 彦	財務課参事兼課長補佐兼教育施設班長
20	中 央 図 書 館	館 長	や の す み お 谷 野 純 夫	(総合教育センター学校支援担当 参事)
21	総 合 教 育 セ ン タ ー	所 長	す ぎ も と と し ひ さ 杉 本 寿 久	事務局参事兼教育総務課長
22	焼 津 青 少 年 の 家	所 長	き し ば た ま さ ゆ き 岸 端 政 之	(静岡中央高等学校事務長)
23	観 音 山 少 年 自 然 の 家	所 長	あ ら か わ よ し の り 荒 川 義 則	(磐田市立岩田小学校長)
24	富 士 山 麓 山 の 村	所 長	さいとう ひろゆき 齋 藤 祐 幸	(田方農業高等学校事務長)

※前所属・職名欄の( )書きは、25年度末人事異動以前の異動による前所属・職名

## 監査結果に関する報告

(教育総務課)

### 1 監査の結果

平成 26 年 3 月 27 日に、今年度、第 5 回目の監査結果の報告があった。

教育委員会については、2 月 6 日から 14 日までに実施した 11 箇所の県立学校等に係る監査について、別紙のとおり 1 件の指摘、5 件の指示を受けた。また、2 件の指導事項があった。

### 2 指摘等事項の概要

指摘の 1 件は、浜松商業高校における教員によるわいせつ行為の発生に関するものである。

指示の 5 件は、校内水泳大会中でのプール事故の発生が 1 件、教員による生徒への体罰行為の発生が 1 件、公務中における交通加害事故の発生が 1 件、後援会所有のマイクロバスの不適切な使用が 1 件と財務に関するものが 1 件である。

指導事項は、不用品処分調書の未作成などであった。

### 3 監査結果の公表

監査結果は、県政の現状や課題等について県民への説明責任を果たすため、3 月 28 日に監査課から記者提供された。

### 4 今後の対応

監査結果に対する措置状況は、平成 26 年 6 月 27 日までに監査委員へ報告する。

(別紙)

指摘 1 件

監査箇所 監査実施日	指摘等の 区分	指摘等事項	
浜松商業高等学校 平成 26 年 2 月 12 日	指 摘	件 名	教員によるわいせつ行為の発生
		内 容	浜松商業高等学校の教諭は平成 25 年 4 月の深夜、駐車場に止めた車中で同乗していた女性にわいせつな行為をした。

指示 29 件

監査箇所 監査実施日	指摘等の 区分	指摘等事項	
浜松商業高等学校 平成 26 年 2 月 12 日	指 示	件 名	校内水泳大会中でのプール事故の発生
		内 容	平成 23 年 9 月、校内水泳大会で生徒がプールに飛び込み、頸椎破裂骨折をする事故が発生した。
浜名高等学校 平成 26 年 2 月 12 日	指 示	件 名	教員による生徒への体罰行為の発生
		内 容	浜名高等学校の教諭は平成 23 年 5 月、部活動中に鬼ごっこをして遊んでいた生徒を指導する際、生徒の頬を平手で叩く体罰を行った。
		件 名	公務中における交通加害事故の発生
		内 容	平成 24 年度に 2 件、公務中や通勤途上で交通加害事故が発生していた。
	指 示	件 名	後援会所有のマイクロバスの不適切な使用
		内 容	浜名高等学校の教諭は平成 24 年 12 月、緊急等の場合を除き公務で自家用車に生徒を同乗させることが禁止されているにもかかわらず、部活動の練習試合のため後援会所有のマイクロバスに生徒 20 名を同乗させ運転した。
中央特別支援学校 平成 26 年 2 月 12 日	指 示	件 名	業務委託の不適切な契約手続
		内 容	平成 24 年度の外壁全面打診調査業務委託の契約書に設計書が添付されていなかった。

「指導事項」 2件

指 導 事 項	
件 名	不用品処分調書の未作成
内 容	平成 24 年度に不用品処分調書を作成することなく、パソコンデスクを売却していた。
件 名	公務中における交通加害事故の発生
内 容	平成 25 年度に 2 件、通勤途上で交通加害事故が発生していた。

天竜高等学校等施設の完成 (H26. 4 月開校の 2 校)

(財務課)

平成 26 年 4 月開校の天竜高等学校及び清流館高等学校の施設が完成したので報告する。

1 天竜高等学校 (二俣高校、天竜林業高校及び春野高校の再編整備)

(1) 敷地面積等 39,281m<sup>2</sup> (天竜林業高校敷地)

(2) 主な施設の概要

区 分	構造・規模	面積(m <sup>2</sup> )
普通教室棟 (新築)	S造4F建	5,081
昇降所棟 (新築)	S造2F建	299
実習棟 (新築)	S造3F建	3,001
多目的体育館 (新築)	RC+W造2F建	845
家庭科実習棟 (既存改修)	RC3F建	602
資料館 (既存改修)	RC造2F建	394
実習棟 (既存改修)	S造2F建	2,005
体育館 (既存改修)	S造2F建	1,423
武道場 (既存改修)	S造1F建	513

2 清流館高等学校 (大井川高校及び吉田高校の再編整備)

(1) 設置場所 39,955m<sup>2</sup> (大井川高校敷地)

(2) 主な施設の概要

区 分	構造・規模	面積(m <sup>2</sup> )
管理・教室棟 (既存活用)	RC造4F建	5,869
普通教室棟 (既存活用)	RC造3F建	1,173
特別教室棟 (既存活用)	RC造4F建	2,395
体育館 (既存活用)	RC+S造2F建	2,552
入浴実習棟 (新築)	S造1F建	259

平成26年度静岡県公立高等学校入学者選抜結果の概要

(学校教育課)

1 入学者選抜の概要 ( ( ) 内の数字は25年度のデータである。)

(1) 全日制の課程

項目	一般選抜	特別選抜				再募集	合計
		海外帰国生徒選抜	外国人生徒選抜	長期欠席生徒選抜	連携型選抜		
実施校数 ※1	95 (97)	15 (15)	9 (9)	3 (3)	3 (3)	28 (24)	
実施科教数 ※2	170 (174)	16 (16)	13 (13)	4 (4)	3 (3)	34 (30)	
募集定員	※3 21,991 (21,621)	8+若干名 (8+若干名)	若干名 (若干名)	若干名 (若干名)	定めない (定めない)	407 (404)	※4 22,325 (21,920)
志願者数	23,658 (23,790)	19 (26)	16 (17)	21 (25)	145 (168)	51 (71)	23,910 (24,097)
受検者数	23,484 (23,667)	19 (26)	16 (16)	21 (25)	144 (168)	51 (71)	23,735 (23,973)
合格者数 ※5	21,757 (21,409)	19 (23)	13 (10)	20 (24)	143 (165)	40 (59)	21,992 (21,690)
実質倍率	1.08 (1.10)	1.00 (1.13)	1.23 (1.60)	1.05 (1.04)	1.01 (1.02)	1.28 (1.20)	

※1 分校等を1校と数える。

※2 小教科数を示す。くり募集は1科として数える。

※3 一般選抜の募集定員には、特別選抜の募集定員を含む。

※4 募集定員の合計は、定員策定時(11月発表)のものであり、併設する中等部からの入学予定者数を含む。

※5 併設する中等部からの入学予定者数(沼津市立沼津66人、清水南110人、浜松西158人)を含まない。中等部からの入学予定者を含むと、合格者数合計は22,326人となる。

(2) 学年制による定時制の課程

項目	一般選抜	再募集	合計
実施校数	18 (18)	16 (18)	
実施科教数	18 (18)	16 (18)	
募集定員	720 (720)	307 (339)	※ 720 (720)
志願者数	458 (426)	68 (71)	526 (497)
受検者数	454 (417)	67 (71)	521 (488)
合格者数	413 (381)	54 (55)	467 (436)
実質倍率	1.10 (1.09)	1.24 (1.29)	

(3) 単位制による定時制の課程

項目	春季		秋季	合計
	一般選抜	再募集		
実施校数	3 (3)	1 (1)	3 (3)	
実施科教数	3 (3)	1 (1)	3 (3)	
募集定員	576 (576)	41 (47)	64 (64)	※ 640 (640)
志願者数	595 (609)	8 (7)	— (102)	— (718)
受検者数	584 (596)	7 (7)	— (102)	— (705)
合格者数	535 (540)	6 (7)	— (70)	— (617)
実質倍率	1.09 (1.10)	1.17 (1.00)	— (1.46)	

※募集定員の合計は、定員策定時(11月発表)のものである。



2 学力検査の結果

平均点（50点満点）及び標準偏差（（ ）内の数字は平成25年度のデータである。）

教科	平均点	標準偏差
国語	29.53 (30.83)	6.60 (7.12)
数学	26.38 (21.55)	10.53 (10.21)
英語	26.48 (28.03)	10.56 (10.16)
社会	32.27 (32.58)	9.38 (9.28)
理科	27.59 (28.69)	8.79 (9.38)
実施校数	95校 (97校)	

※分校等を1校と数える。  
全日制の課程のみ。

3 一般選抜学校裁量枠における学校独自選抜資料実施校・科数

（（ ）内の数字は平成25年度のデータである。）

	学校裁量枠設定校 全日制85校148科	
	実施校	科
作文	5 (6)	7 (9)
小論文	0 (0)	0 (0)
実技検査	78 (78)	127 (127)
適応力検査	5 (5)	6 (6)

※分校等を1校と数える。  
全日制の課程のみ。

## 県内文化財の重要文化財指定

(文化財保護課)

### 1 趣旨

国の文化審議会は、平成26年3月18日(火)に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、文部科学大臣に対して、重要文化財等の指定について答申を行った。

県内関係では方廣寺(ほうこうじ)の木造釈迦如来及両脇侍坐像(もくぞうしゃかによらいおよびりょうきょうじざぞう)が重要文化財に指定される。これによって県内の重要文化財(有形文化財)は216件(うち彫刻は22件)となる。

### 2 指定物件の内容

#### (1) 名称

木造釈迦如来及両脇侍坐像(もくぞうしゃかによらいおよびりょうきょうじざぞう) 院吉(いんきつ)、院広(いんこう)、院遵(いんじゅん) 作 三軀

#### (2) 所有者 宗教法人方廣寺(ほうこうじ)

#### (3) 所在地 浜松市北区引佐町奥山1577-1

#### (4) 文化財の概要

南北朝時代(観応(かんのう)3年(1352))に仏師院吉を統率者とし、両脇侍を院広・院遵が造った釈迦三尊像(しゃかさんぞんぞう)。かつて常陸清音(せいおん)寺(茨城県)の本尊として伝わり、明治期に方廣寺に移された。

像の姿は三尊とも面長、切れ長の目や幅の広い鼻を持つ癖のある顔立ちであり、衣文(えもん)は強く屈曲する線を多用し、彫りに深淺の変化が見られる。

平成25年に2か年にわたる保存修理が終わり、一部普賢菩薩の台座が室町期の後補であることが分かったが、衣の金泥塗や精緻な金工技術による装身具等が残り、総じて造立当初の華やかな姿をとどめている。本像はこの時代の第一人者院吉の作品として、大きさと出来栄えにおいて高く評価される。

#### (5) 像の高さ

中尊(釈迦如来) 104.2cm

左脇侍(文殊(もんじゅ)菩薩) 56.8cm

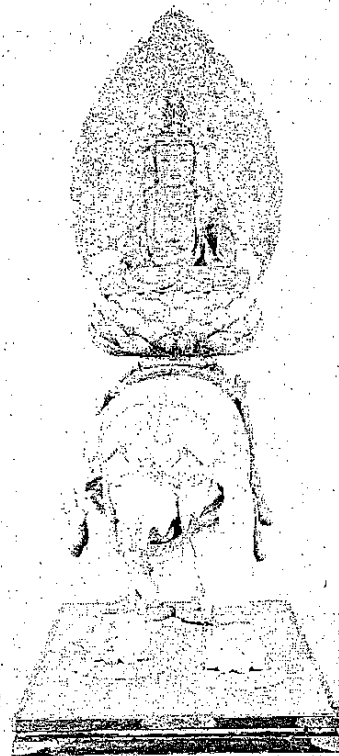
右脇侍(普賢(ふげん)菩薩) 55.6cm



釈迦如来坐像



文殊菩薩坐像（智恵）



普賢菩薩坐像（慈悲・真理）